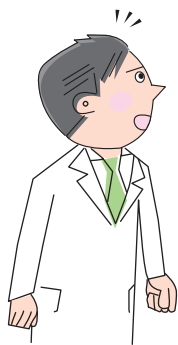


全健保組合の2016年度予算集計から

IBM健保組合の財政状況をみると…

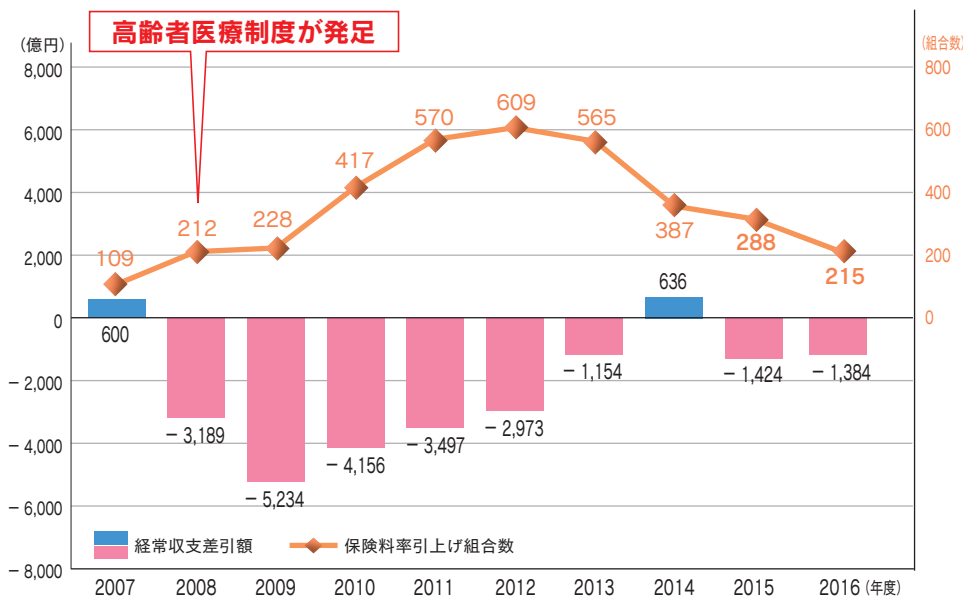


特徴

- ①平均よりも 11 ポイント低い保険料率
- ②保険給付費は平均より高く、支援金・納付金は低い傾向に

「My Health」88号では、IBM健保組合の2016年度事業計画と予算についてお知らせしましたが、健保連（健康保険組合連合会）では全国の健保組合の予算早期集計結果をまとめ、発表しました。はたして、全国の健保組合の2016年度予算段階での財政状況はどうか、またIBM健保組合は健保組合全体からみるとどのような状況なのか、比較してみました。

グラフ①
全健保組合の経常収支状況と保険料率引上げ組合数の推移



(注1) 2007～2013年度までは決算、2014年度は決算見込、2015年度は予算、2016年度は予算早期集計の数値。
(注2) 保険料率引上げ組合数は、2007～2014年度までは前年度決算、2015年度は2014年度決算見込との比較。2016年度は予算データ報告組合（1,378組合）と2015年度予算との比較。

保険料率については、これまで多くの健保組合が何度か引上げを行い、すでに高い水準に達しており、健保組合全体の平均保険料率をみても、平均で91・03/1000と過去最高の水準に達しています。また、主に中小企業の従業員が加入する協会けんぽの保険料率（全国平均）100/1000以上の健保組合も299組合となり、これも過去最多という状況です（グラフ②）。IBM健保組合の保険料率は80/1000（事業主負担を含む）のまま予算編成ができていることから、他の健保組合に比べると、財政的には健全な状況といえます。

なお、被保険者数増加の影響もあり、健保組合全体の保険給付費（法定給付費）は前年度比3・80%増と大幅な増加となっています。

健保組合が何度か引上げを行い、すでに高い水準に達しており、健保組合全体の平均保険料率をみても、平均で91・03/1000と過去最高の水準に達しています。また、主に中小企業の従業員が加入する協会けんぽの保険料率（全国平均）100/1000以上の健保組合も299組合となり、これも過去最多という状況です（グラフ②）。IBM健保組合の保険料率は80/1000（事業主負担を含む）のまま予算編成ができていることから、他の健保組合に比べると、財政的には健全な状況といえます。



IBM健保組合が黒字の予算に対し 健保組合全体では依然赤字が続く

すでにお知らせしたように、IBM健保組合の2016年度予算では前年度から一転して黒字となっていますが、健保組合全体では依然として赤字の予算が続いています。ただし、赤字額は前年度から40億円改善、保険料率を引き上げる組合数も減少して高齢者

医療制度が創設された2008年度並みの215組合となりました（グラフ①）。これは、被保険者数の増加により、保険料収入が前年度比2・24%増となる見込みであること、一方、高齢者医療制度への支援金・納付金は、2014年度分の精算による相殺で0・13%と微増にとどまる見通しであることなどが影響しています。ただ被保険者数の増加については、この10月に実施される短時間労働者の社会保険適用拡大の影響を受ける組合が少なくないためであり、そのため一人当たり保険料についてはごくわずかな伸びにとどまる見通しです。IBM健保組合の場合は被保険者数はやや減となる見込みですが、保険料収入は増加、支援金・納付金も他の健保組合と同様の傾向といえます。

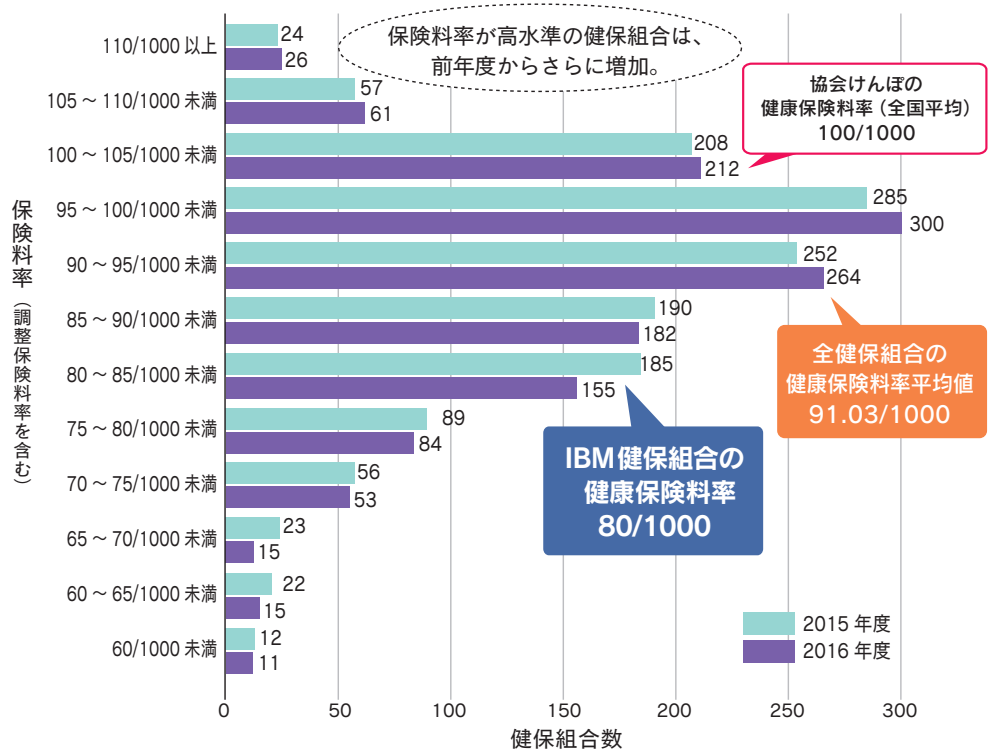
2/3 総報酬割の影響で大きく増加する IBM 健保組合の支援金

昨年成立した医療保険制度改革関連法の改正により、2016年度の後期高齢者支援金についてはその算定方法のうち「総報酬割」が1/2から2/3に引き上げられ、IBM健保組合のように被保険者の報酬水準の高い健保組合の負担がさらに重くなります。一方、

前期高齢者納付金については財政調整というしくみのため、特例退職被保険者制度を実施しているIBM健保組合は健保組合全体の平均よりも低く抑えられており、特に2016年度は前期高齢者加入率の上昇により、前年度よりもさらに納付金は少なくて済む見込みです。ただし健保組合全体で見ると、確実に高齢者数は増加して医療費を押し上げ、納付金全体も増え続けているのです。

以上のように、健保組合の平均の姿と比較すると、IBM健保組合は財政的に良好な状況に見えますが、しかし今後を展望すると、予断を許さないとはいえません。支援金の総報酬割の割合は毎年引き上げられて2017年度からは全面総報酬割（加入者割がなく総報酬割のみで算定）となるため、この年大きく増えて、さらに今後も増え続けることは確実なのです。

グラフ②
2016年度保険料率別健保組合数（2015年度との比較）



被保険者一人当たりで見ると IBM 健保組合と健保組合平均との違い

IBM健保組合の主な支出項目の予算額を一人当たりで見ると、まず、総報酬割拡大の影響で増加する支援金は14万4千円と、健保組合平均の1.38倍に。前年度の1.34倍から、負担の格差はさらに広がっています。一方、特例退職被保険者制度の影響により前期高齢者納付金については、平均のおよそ4割とかなり低くなっています*。

半面、最大の支出額で主に加算者の医療費に充てられる保険給付費（高齢者分を含む）は、高齢者の加入率が高いこともあって平均の1.37倍となっています。

このような状況の中、健診等の疾病予防を中心とした保健事業費については健保組合平均の2倍以上の予算を計上しており、IBM健保組合がいかに保健事業に力を入れているかがおわかりいただけることと思います。

*前期高齢者の加入率は全健保組合平均3.15%に対しIBM健保組合は11.03%と3.5倍の加入率。前期高齢者納付金は加入率が低いほど負担額が大きくなる財政調整のしくみとなっている。

2016年度予算ベースで比較した主な支出の被保険者一人当たり額

